原っ子

小郡市立大原小学校　学校だより（第20号）
令和8年11月16日　児童数 399名
重点目標　「自ら気づき、考え、ともに表現する子どもの育成」
校長　福永　隆二

5年生　稲刈りを行いました





【地域の方々のご指導による稲刈りの様子】

10月19日（月）に5年生が稲刈りを行いました。6月に田植えを行ってから約4か月、立派な稲穂に育ちました。子どもたちは、地域の方々から、稲の刈り方を教えてもらい、一人ひとり鎌を持って、稲を刈りました。

はじめは、刈ることにてこずっていた子どもたちですが、慣れてくると、どんどん上手に刈っていきました。

刈り取った稲は、コンバインで脱穀してもらいました。

このように、立派な稲が育つことができたのは、地域の方々が、水の管理などのお世話をしていただいたおかげです。本当にありがとうございました。

稲刈り後、乾燥、精米していただき、200kgを超えるお米ができました。

このお米を、11月7日に行われました「リバティフェスタ」で1袋2kg、合計85袋を販売したところ、あっという間に完売しました。

5年生のみなさん、ありがとうございました。



【お米の販売】

人権を考える日の取組

10月30日（金）に人権を考える日の取組を実施しました。人権を考える日は、自分や友達を大切にできているか、みんなが安心して生活することができているか、私たち教師も、集団や自分の実践を見直す日です。

各学級で、子どもたちに考えさせたい教材を使って、自分や友達との関わり方や、ものごとを正しく知ることの大切さ等を考えました。

1年生では、【われた　かびん】の教材を使って、きめつけや偏見のおかしさに気付き、きめつけることはしたくないと思うことの大切さを学びました。

2年生では、【てっちゃん】の教材を通して、友達に対する自分の言動を振り返り、みんなが楽しくぶために相手を思う言葉かけをすることの大切さを話し合いました。

3年生では、【わたしのせいじゃない】の教材を使って、いじめの構造について知るとともに、自分自身の友達に対する言動を振り返りました。

4年生では、【みえるとか　みえないとか】の教材から、自分と違う特性や背景もつ人の立場になって想像することを通して、ちがいを認め、尊重し合うことの大切さを話し合いました。

5年生では、【どうして学校にきてはいけないのですか】の教材から、ハンセン病に対する差別について考え、正しく学ぶことで、差別をなくしていこうとする自分たちの言動を見つめ直していきました。

6年生では、【わたしのせいじゃない】の学習で、傍観者として無責任な気持ちがいじめを生んでいることに気づき、いじめを断ち切るために、何が必要かを考えていきました。

この日だけの取組ではなく、日々の教育実践に生かしていきます。

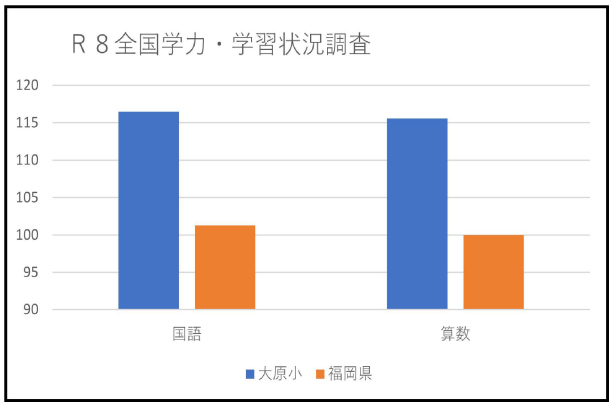
～おごおりっ子からのメッセージ　堂々とした発表でした～

11月1日（日）に、小郡市文化会館大ホールで「おごおりっ子からのメッセージ」が開催され、市内の小・中・高校生が、毎日の生活で感じていること、日々の学習から考えたことを主張しました。

本校からは、6年生の流合聡輔さんが学校の代表として、「優しさをつなげて」と題して、家族からもらった優しさを家族に返すだけでなく、もっと広げることができないかと呼びかけました。「地域の行事に参加すること」や「小さい子やお年寄りを手伝ったりすること」など、自分ができる小さな行動をしていくことで、家庭も地域も、そして社会も、今より少しあたたかくなることを堂々と主張し、会場から多くの拍手が送られました。

全国学力・学習状況調査の結果について

小郡市教育委員会より、小郡市全体の結果についてお知らせがありました。遅くなりましたが、本校の状況についてお伝えします。全国平均を100として「国語116.5」「算数115.6」という結果でした。国語、算数とも全国平均を大きく上回りました。



これまでの4年生、5年生で取り組んできた対話を重視した授業づくりや学習内容の定着を図る取組を積み上げてきた成果が表れていると考えます。

一方で、国語の「書くこと」や、資料をもとに考えを表現する問題には課題が見られました。

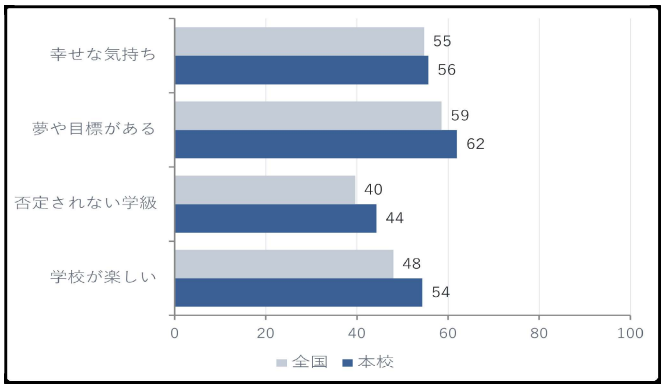
学校としても、「友達の考えを聞いて自分の考えを発表する」「学習を振り返って、自分が学んだことをまとめる」など、授業の中で実践できるように指導していきます。

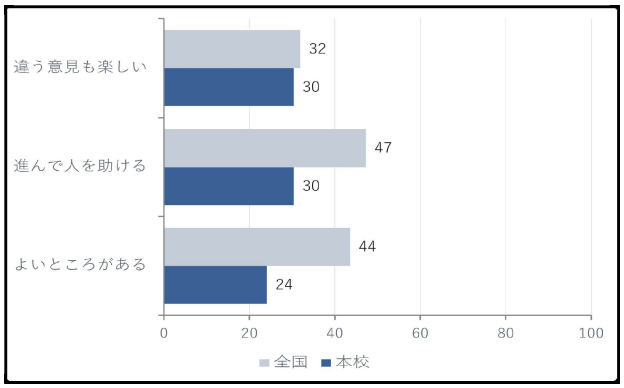
しかし、この学力調査の結果は、「見える学力」の一部です。「見えにくい学力」としての、「他者と協働して問題を解決する力」や「善悪の判断力」、そして学力の土台となる「自己肯定感」や「我慢する力」「共感性」なども大事に育てていかなければならないと考えています。

そのためにも、子どもたちが安心して自分の考えを発表できる、受け止めてくれる学級集団になっておくことが必要です。「子どもが主語になる授業づくり、生活づくり」をしていこうと確認しているところです。

児童質問紙の結果について

全国学力・学習状況調査では、学習習慣や生活習慣、子どもたちの自己肯定感など「見えにくい学力」を知るための児童質問紙調査（6年生対象）も行われています。【青：大原小　グレー：全国】





登校の楽しさ、学級の受容的な雰囲気、将来の目標がいずれも全国を上回っています。学級経営の成果として、次の課題である自己肯定感（自分にはよいところがある）の育成につなげたいと考えます。

学校と家庭とともに、子どもたちのよさを認め、励まし、伸ばしていくことを心がけていきたいです。また、「家庭学習の時間」が多い児童がいる一方で、少ない児童もいるようです。学んだことが定着できるようやり方を工夫していきます。ご家庭でも、声かけや見守りなどよろしくお願いします。